

ICT を活用した英語教育とコーチング

—ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスの指導法—

English Education utilizing ICT and Personal Coaching

— An Effective Teaching Method of ALC Net Academy2 PowerWords Course Plus —

柏原郁子

IKUKO KASHIWABARA

ICT を活用した英語教育とコーチング

—ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスの指導法—

English Education utilizing ICT and Personal Coaching

— An Effective Teaching Method of ALC Net Academy2 PowerWords Course Plus —

柏原郁子*

IKUKO KASHIWABARA

Keywords : ICT、自学自習、ALC Net Academy2、語彙習得、コーチング

【要 旨】

大阪電気通信大学の、自学自習科目「英語コミュニケーション（目的別）」では、学生自身が自分のレベルに合った ICT 教材を自由に選び、自分に合ったペースで学習を進めていくことができるため、「楽しく学習に取り組める」科目として学生に好評のようである。しかしながら、英語の実力を引き上げるためには、学生の習熟度を見極めながら適切な教材を提供して、効果的な学習を促すコーチングが不可欠である。

本稿では、「英語コミュニケーション（目的別）」の教材のひとつである ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスの効果的な指導方法を述べる。

1. はじめに

大学生の学力の差が指摘されて久しいが、大阪電気通信大学では、大人数でも効果的な教育運営を目指し、新入生全員に英語プレイスメントテストを行い、英語リーディングのクラスにおいて習熟度別クラス編成を実施している。また Nintendo DS などさまざまな ICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）教育機器を英語教育に導入し、先進的な英語教育を実践してきた¹。また ICT 機器の効果的な活用方法を提案するなどしてきた。

習熟度別クラス編成の実施で授業運営は円滑になったが、学生個人個人に細やかな

* 大阪電気通信大学工学部英語教育センター 准教授

¹ 柏原郁子 「ニンテンドーDS による英語教育の試みとその可能性—「DS de イングリッシュ」で楽しく英語力アップ—」『人間科学研究』第9号 大阪電気通信大学 2007.3 pp. 55-71

柏原郁子 「ニンテンドーDS による英語教育と「英語コミュニケーション」—DS「えいご漬け」の完走を目指して—」『大坪精治先生古希記念論文集』大阪電気通信大学 2008.3 pp. 71 - 84

指導が実現できた訳ではない。英語に苦手意識を持つ学生は、自分のレベルにあった教材を学生自身のペースで学習する必要がある。また学習を継続させるためには、教員が学生の英語のレベルを見極め、次のレベルへと着実にステップアップさせる必要がある。

そこで、大阪電気通信大学寝屋川キャンパスでは、個々の学生に個人指導が可能で、しかも学習を望む学生には週に複数回受講できる自学自習科目「英語コミュニケーション（目的別）」を、2007年度のカリキュラムから新設した。それまでに導入してきた ICT 機器、e-Learning コンテンツ ALC Net Academy²や、Moodle で作成した「らくらくイングリッシュ」³などは、一部の教員にしか使われなかったが、この科目を複数の専任教員が担当することにより、今まで ICT に関わる機会のなかった教員にも活用することができるようになった。

しかし、ICT を活用した英語教育における指導上の盲点は、目の前にいる学生が ICT 機器を操作しながら、コンテンツを一生懸命に取り組んでいるように錯覚してしまうことである。例えばクラスの学生たちが懸命に画面を目で追っている先が、英語教材ではなく YouTube であったり Mixi であったりする。そのような場合、教員が教卓に座っているだけでは教育効果は全く望めない。

現在、「英語コミュニケーション（目的別）」は、学生のニーズにあったさまざまな教材を提供し、学生の個々のペースで自由に学習できるので、学生からも「学習意欲が増す」と好評のようである。しかしながら、英語の実力を引き上げるためには、学生の習熟度を見極めながら適切な教材を提供して、効果的な学習を促すコーチングが不可欠である。

2. コーチングの必要性

ICT を活用した英語教育を実践する際、教員による個人コーチングが欠かせない。e-Learning には優れたコンテンツが多いのだが、自学自習では一人で操作せざるを得ず、ともすれば孤独な学習となる。そのような状況で英語を苦手とする学生の英語学習に対するモチベーションを保つことは難しい。教員が、学生個人個人の英語力を見極め、その学生の英語力を伸ばすために、適切な目標設定を促し、次に何をすべきかを逐一指導して初めてコーチングが成り立つのだ。ただボタンをクリックする e-Learning の教材も、英語力を伸ばすための効果的な手順を、学生にアドバイスする

² 柏原郁子 「e-Learning 教材における Reading 指導法—ALC Net Academy リーディング力強化コースを用いた実践授業—」『人間科学研究』第 7 号 大阪電気通信大学 2005. 3 pp. 99-112

柏原郁子 「e-Learning 教材における効果的指導法、ALC Net Academy を用いた実践授業と学生によるアンケート評価」『外国語教育フォーラム』第 4 号 関西大学 2005.3 pp. 79-92

³ 柏原郁子 「英語リスニング教材「らくらくイングリッシュ」による e-Learning 英語教育」『人間科学研究』第 8 号 大阪電気通信大学 2006. 3 pp. 89-105

だけで、確実にコースを最後まで修了できるモチベーションを維持することができるだろう。しかしながら、厳しい就職戦線を控えた学生が、就職活動で少しでも優位に立つためには、英語資格試験とくに TOEIC テストで500点以上取得する必要性も高まってきている。英語の実力を引き上げるためには、学生の習熟度を見極めながら、学生にあった教材を提供し、効果的な学習を促す質の高いコーチングを提供することが不可欠となる。

3. ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスのコーチング

まず「英語コミュニケーション（目的別）」で活用している教材のうち ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスを効果的に学習できる指導方法を述べる。学生が PowerWords を使って学習する際、その指導手順として参考にして欲しい。

3. 1. 語彙学習ソフト：ALC Net Academy 2 PowerWords コースプラスとは

「英語コミュニケーション」に参加している学生に一番人気がある教材が ALC Net Academy2 にある PowerWords コースプラス⁴である。もともと語彙力に不安を抱える学生が多いので、苦手意識を覚え始めた中学生時代に習う語彙から学習し直せるのが魅力らしい。このコースはレベル1からレベル12まで分かれており、各レベル1000語学習することができる。全てのレベルを修了すれば12000語を習得することができ、語彙に不安を覚えることもなくなるだろう。レベルの目安は表1の通りである。

レベル1	英語の基礎をなす必須単語	レベル2	日常生活で活躍する英単語
レベル3	楽しく会話のはずむ英単語	レベル4	読解の基礎を固める英単語
レベル5	大学受験前に覚える英単語	レベル6	検定試験に挑戦する英単語
レベル7	表現力を豊かにする英単語	レベル8	読解の自信を深める英単語
レベル9	TOEIC(R)高得点を狙う英単語	レベル10-12	英文雑誌を楽しめる英単語

表1：PowerWords コースプラス 各レベルの目安

3. 2. 効果的な指導法

何の指導もなく学生がこのコースに着手すると、学生はひたすら番号を選び、綴りを打ち込むだけで、音声を聞くこともない。気まぐれに番号を押すだけでは、語彙力もつかないし、単調な操作にむなしさを覚えるだけである。そんな学習を続けていくと、語彙レベルが高くなり自分の知らない単語が画面にでてきて、正解することもある。

⁴ 詳しくは、http://www.alc-education.co.jp/academic/net/co_power.html を参照のこと

くなり、やがて学習を断念してしまう。学生が最後までこのコースを修了させるためには、語彙力がついていると実感できるような指導が必要である。

以下ではレベル1のUnit1を例にとり、効果的な指導手順を具体的に述べていこう。まずUnit1を選ぶと図1のような画面が出てくるが、これが各ユニットの大きな流れである。



図1：レベル1ユニット1最初の画面

A. 【準備しよう】

3つのどの項目からでも始められるようになっているが、必ず「準備しよう」から始める必要がある。これを選択すると音声とともに単語とピクチャーが図2のような画面が現れる。



図2：「準備しよう」画面

単語を学習する場合、多くの学生は英語の綴りと日本語の意味さえ覚えればいいと思っている。そんな学生が英語を話せない理由の多くは、英語の音声を聞かず、自分の口から英語を発音する機会を持たないことである。これを改善するには、この【準備しよう】で、“綴り-イメージ-音声-発声”をあわせた練習を課すことが大切なポイントだ。「語学は五感」とは良く言ったものだが、多くの感覚を使えば使うほど記憶の定着力は高まるようだ。綴りを頭でイメージするのが苦手な学生には、音声を聞きながら、何回か紙に書いてみることを勧めてみると良いだろう。

レベル1では、知っている単語ばかりなので油断して【準備しよう】をとばしてしまい、次の【覚えよう】に進みたがる学生が多いので、先に注意することが必要である。

B. 【覚えよう】

【準備しよう】で大まかな綴りと、イメージ作りができれば、次から進みやすい。ここでは、図3のように、(1)日本語訳3択練習問題→(2)綴り並べ替え練習→(3)綴りの3択練習問題、の3種類の練習パターンの語彙学習が続く。

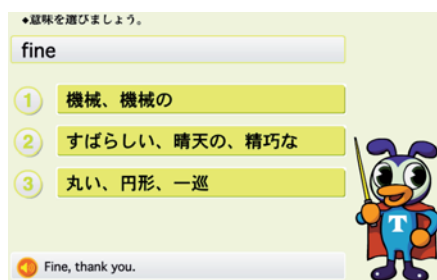
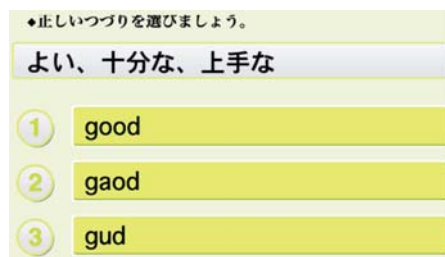


図3：PowerWords「覚えよう」画面 (1)



「覚えよう」画面 (2)



「覚えよう」画面 (3)

まず学習者には、この「日本語訳3択練習問題」にもっとも時間を費やすよう指示する必要がある。ここで"綴り-イメージ-音声-発声"の練習を行えば、次の2種類のパターンの練習は比較的短時間で修了することができるはずである。

最初の行が英語である場合(fine)、カーソルを指すたびに音声は何回も流れてくるので、音声を聞きながら発声する必要がある。簡単な語彙の場合は、音声も聞かずに3択問題の答を押して次に進む学生が多々見られるが、語彙のレベルが上がって未知の単語が出てくると、当てずっぽうに答えることになるだろう。そうすると、次のステップで取り組む際進捗が極端に遅くなり、このソフトを継続することは困難になる。

図3画面(1)の答えを解答する前に、まず画面(1)の下部にあるマイクのアイコンを押して例文を聞いて、発音するよう指示したい。単語も例文の中で記憶する方が、記憶に残りやすいので、この例文を何回も繰り返し聞き、シャドーイング（音声を聞きながら、その音声をそのまま真似て音読する作業）がうまくできるまで繰り返すのがポ

イントだ。それでも綴りが覚えられないという学生には、画面を見ずに音声のみ聞きながら、ディクテーション（音声を聞き、その文章を書き取る作業）をするよう勧めている。

次の(2)綴り並べ替え練習と(3)綴りの3択練習問題は、画面(2)(3)のように、正しい綴りをタイプする学習と、正しい綴りを選択する問題が続く。画面(1)日本語訳3択練習問題で"綴り-イメージ-音声-発声"練習を十分行った場合は、時間もさほどかからないだろう。

C. 【挑戦しよう】

【挑戦しよう】では、図4のように「ディクテーション」「シャドーイング」「サウンドマッチ」「イメージマッチ」の項目から構成されている。このコーナーは、学習したところで進捗度が進むわけでもないの学生から敬遠されがちであるが、語彙学習を定着させるためには欠かせない。図4のように、この画面左上に「あなたの学習ポイント」が表示されている。このポイントは各ユニットを消化する毎に、そして【挑戦しよう】の練習問題をやる毎にポイントが加算される仕組みになっている。そのため、「学期終了時学習ポイントの得点が高い人には良い評価が与えられる」ことを学習前に伝えて、学生の継続意欲を高めておくが良い。



図4：PowerWords【挑戦しよう】画面

「ディクテーション」の項目では、各ユニットに出てくる20単語全ての例文が準備されているので、復習するには便利である。図5に示す画面のマイクのアイコンを押せば例文の音声を繰り返し聞くことが可能である。また日本語訳が知りたい場合は、「意味表示」をクリックすると英文の下に日本語訳が表示される。初級では各ユニットで学習する単語のみをディクテーションするので、単語力のレベルが低い学生には

初級のみクリアすれば十分である。「ディクテーション」中級、上級とレベルが上がると、ディクテーションしなければならない語数が増えるが、リスニングの力を上げたい学生には、上級まで学習することを勧めるのも良いだろう。

The screenshot shows a web-based dictation exercise interface. At the top, there are instructions in Japanese: 'ボタンをクリックし、例文の空欄部分に聞き取った単語を入力してください。' (Click the button and enter the word you heard in the blank part of the example sentence.) and '入力出来たら 正解チェック ボタンをクリックして、答えを確かめてみましょう。' (After inputting, click the 'Correct Check' button to confirm the answer.). Below the instructions are two buttons: a speaker icon for audio playback and a button labeled '意味表示' (Show Meaning). The main area contains a text input field with the sentence 'I have a _____.' and a second input field below it containing the Japanese translation '私は犬を一匹飼っています。' (I am raising one dog.). At the bottom right, there is a yellow button labeled '正解チェック' (Correct Check).

図5：【挑戦しよう】ディクテーション初級

「シャドーイング」の項目では各ユニットにある例文全てをシャドーイングし直すことになる。【覚えよう】の画面の例文を何回もシャドーイングを繰り返した学生は、再度やる必要はない。しかし、このユニットを終えてしばらく時間が経過している場合、忘れかけている単語の記憶を定着させるにはとてもいい訓練だ。シャドーイング初級では、図6のように例文を見ながらシャドーイングを行う。シャドーイング中級になると例文部分が見え隠れし、シャドーイング上級では例文が一切表示されないように工夫されている。シャドーイング初級で、画面を見ずにシャドーイングの練習をするなら、中級、上級までを学習する必要はないであろう。

The screenshot shows a web-based shadowing exercise interface. At the top, it displays 'あなたの学習ポイント 2062' (Your learning points: 2062) and 'Unit 01/英単語レベル1 学習' (Unit 01/English word level 1 learning). The main heading is '挑戦しよう！ シャドーイング 初級' (Challenge! Shadowing Beginner). Below this is a sub-heading '復習' (Review). The instructions say: '音声に合わせて、声をだしてみましょう。' (Follow the audio and make a sound.) and '音声は3回繰り返されます。' (The audio will be repeated 3 times.). There is a speaker icon button. Below that is a text input field containing the sentence 'Good morning.'.

図6：【挑戦しよう】シャドーイング初級

「サウンドマッチ」の項目では音声を聞いて正しい日本語訳を選択する問題である。図7のように画面左端にあるマイクボタンを押すと、音声が続くので、発

音しながら意味を選択し、右下「正解チェック」を押すとスペリングに正しいスペルが表示される。【覚えよう】で何回もやってきた学生にとって、ここで繰り返し学習する必要はないだろう。しかし、レベルが高くなり、【覚えよう】で学習した後も単語を確実に覚えたかどうか確信がない場合は、復習を勧めたい。



図7：【挑戦しよう】サウンドマッチ画面

「イメージマッチ」は、図8のように音声を聞いてイメージ画を選択する問題であり、学生が一番楽しげに学習を繰り返している項目だ。初級、中級、上級とレベルが上がるほど、画面右上にある制限時間が短くなるのだが、コーチングを行って、学習を積み上げてきた学生は難なくクリアできるようになってくる。しかしながら、何回も繰り返し同じ問題をやっても学習ポイントに加算されていくので、注意しなければならない。学習者の中には単にポイントを稼ぐのを目的に繰り返している学生がいるからだ。進捗度が低いにもかかわらず、学習ポイントが異常に高得点な場合は、この「イメージマッチ」を繰り返しやっているケースが多い。アルクには回数制限を設けるなど、改善していただきたい点のひとつである。



図 8：【挑戦しよう】「イメージマッチ」画面

各ユニットを以上の指導手順でコーチングを行えば、学習者は確実に語彙力を付けることができ、自分の力で学習を継続していくことが可能となるだろう。

理想的な進捗度としては、入門レベルに相当するレベル 1 は 1 ヶ月以内に修了し、初級レベルに相当するレベル 2 から 4 は、各レベル 2 ヶ月以内に修了するのを目標設定にするのが良いと思われる。本当に単語力がついたかどうか不安に思う学生もいるので、コース内にある「レベル診断テスト」を定期的に受験するよう勧めている。この「レベル診断テスト」は受験者の語彙レベルによって出題単語や出題語彙数が適宜変わるうえ、何回でも受験することができるよう工夫されている。判定結果はレベル 1 からレベル 1 2 の 1 2 のレベルで判定されるが、アルク社の「標準語彙水準 12000」(SVL) (SVL=Standard Vocabulary List)⁵によると、レベル 4 までマスターすれば TOEIC500 点を取得できる語彙数に相当すると言われているので、TOEIC500 点を目指す学生には約半年間でレベル 4 まで修了するよう指導するのが良いだろう。

4. まとめと今後の課題

この小論では、ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスの効果的な指導法について取り上げた。ALC 社の Net Academy は全国約 400 の教育機関で採用されているらしい。しかしながら、導入したものの稼働率を上げるためにどのような運営をすればいいのか模索している大学も多いはずだ。PowerWords コースプラスも導入しただけでは、学生が率先して学習を継続するのは難しいように思われる。本学の自学自習科目「英語コミュニケーション (目的別)」のように、学生に対する個別コーチング体制を整えた上で、このソフトを活用すれば、稼働率も上がり学生の満足度も上がる

⁵ 詳しくは、<http://www.alc.co.jp/eng/vocab/svl/index.html> を参照のこと

はずだ。

ALC Net Academy2 PowerWords コースプラスを活用した語彙学習は、学生にとっても新鮮だったようで、アンケートには次のようなコメントを寄せている。

- パワーワーズをしたおかげで英単語が覚えられたと思います
- 今まで音声を使って単語を覚えたことがなかったので新鮮だった
- 自分で好きな教材を選べるので、楽しく学習に取り組めた
- 自由に自分のやり方やペースで行える点がよかった
- パソコンを使って、自分のレベルに応じた勉強ができた

本学では「英語コミュニケーション」という自学自習の新しい授業スタイルは予想以上に学生に好評のようである。そして ICT を活用した英語教育は、英語のレベルが混在した学生のクラスでも、教員による個別コーチングを工夫すれば、最大限の効果を発揮できる可能性がある。語学教育の大人数一斉授業が当たり前のように行われている現在、学生自身で自分にあった教材を選び、自分のペースで学習を行える授業が本当は望まれているのかもしれない。今後は、学生の英語力をつけるプログラムとその指導法の確立が必要と思われる。

授業を運営するにあたり、大阪電気通信大学メディアコミュニケーションセンターの清水学氏、岩村真吾氏、和田逸郎氏をはじめメディアコミュニケーションセンターのスタッフの方々には大変お世話になりました。また英語コミュニケーションを担当されている英語教育センターの先生方に感謝致します。

参考文献

- 柏原郁子「ニンテンドーDS による英語教育の試みとその可能性―「DS de イングリッシュ」で楽しく英語力アップ―」『人間科学研究』第 9 号 大阪電気通信大学 2007. 3 pp. 55-71
- 柏原郁子「ニンテンドーDS による英語教育と「英語コミュニケーション」―DS「えいご漬け」の完走を目指して―」『大坪精治先生古希記念論文集』大阪電気通信大学 2008. 3 pp. 71 - 84
- 柏原郁子「e-Learning 教材における Reading 指導法―ALC Net Academy リーディング力強化コースを用いた実践授業―」『人間科学研究』第 7 号 大阪電気通信大学 2005. 3 pp. 99-112
- 柏原郁子「e-Learning 教材における効果的指導法、ALC Net Academy を用いた実践授業と学生によるアンケート評価」『外国語教育フォーラム』第 4 号 関西大学 2005. 3 pp. 79-92
- 柏原郁子 「英語リスニング教材「らくらくイングリッシュ」による e-Learning 英語教育」『人間科学研究』第 8 号 大阪電気通信大学 2006. 3 pp. 89-105

ALC Net Academy2 PowerWords コースプラス

http://www.alc-education.co.jp/academic/net/co_power.html

